

## 東大の脱文 [パラグラフ] 挿入問題で 読解論理の再確認

90年代末以降、東大では第1問要約問題(A)の次に(B)として「脱文 [パラグラフ] 挿入問題」という形式の問題が例年出題されています。この章では、この形式の問題をとりあげます。

当初のパラグラフを入れさせる問題から、近年では、1つの短文を複数の箇所から選択させたり、「取り除いても全体の趣旨に影響のない文」を選ばせたりするタイプにシフトしているようです。この手の問題を通して東大が見たいのは、これまで強調してきた読解論理の活用、特に指示語や代名詞の指示内容をきちんととらえているか、**Discourse Marker**の表す意味に従って英文を読んでいるかという、いふなれば英文を読む上で当たり前のことなのですが、かなりの英語上級者の中にも苦手意識を持つ人がかなりいるようです。

この形式の問題は、文と文、もしくは、パラグラフとパラグラフのつながり(=論理的整合性)を把握する力を問うものであり、本書で取り上げてきた、まさに「英文正読」の考え方を確認するのに、ある意味理想的な問題といえるでしょう。そういった観点からもこの章の問題に取り組んでいただきたいと思えます。